# 月刊 しばうら

**2018年 6月号**

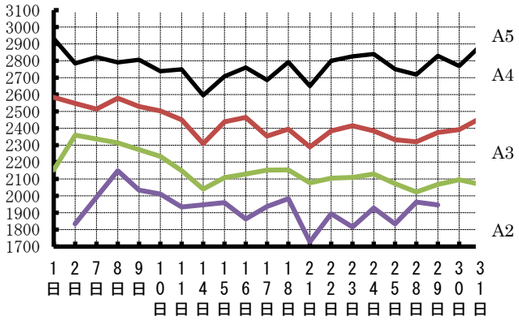
## 大動物事業部

＜5月の相場動向＞

和牛去勢A5が前月比63円安の2,769円（前年同月比52円安）、A4が54円安の2,427円（同25円安）、A3が10円安の2,147円（同35円安）、A2が25円高の1,957円（同8円高）となり、交雑牛去勢はB4が4円高の1,696円（同7円高）、B 3が32円高の1,526円（同61円高）、B 2が74円高の1,363円（同125円高）となった。

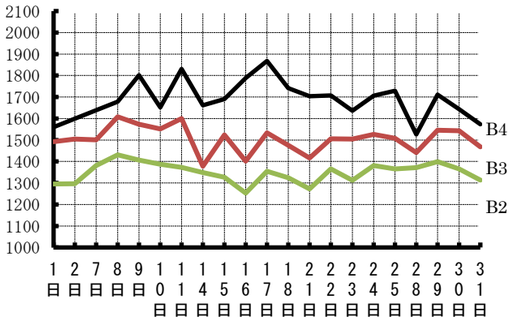
和牛は堅調な相場で推移していた上物規格物品が月後半には軟調な相場展開となり、特に5等級は品質による価格と引き合いの価格差が拡大した。また、割安感が出たことなどで前月に上伸した交雑牛は引き続き続伸する相場となった。

**和牛去勢　日別相場表（5月）**




| 和牛去勢月平均 | | 前年同月比 | 前月比 |
|---|---|---|---|
| A5 | 2,769円 | 98.2% | 97.8% |
| A4 | 2,427円 | 99.0% | 97.8% |
| A3 | 2,147円 | 98.4% | 99.5% |
| A2 | 1,957円 | 100.4% | 101.3% |

**交雑去勢　日別相場表（5月）**




| 交雑去勢月平均 | | 前年同月比 | 前月比 |
|---|---|---|---|
| B4 | 1,696円 | 100.4% | 100.2% |
| B3 | 1,526円 | 104.2% | 102.1% |
| B2 | 1,363円 | 110.1% | 105.7% |

| 乳牛去勢月平均 | | 前年同月比 | 前月比 |
|---|---|---|---|
| B3 | 上場なし | | |
| B2 | 1,051円 | 109.0% | 102.2% |

＜6月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構は4月～9月の牛と畜頭数の見込みを公表した。全品種と畜頭数をみると、主に乳用種の減少（前年同期比約4%減）が見込まれることなどから、合計で前年同期比約3%減と見込んでいる。

和牛については、生産基盤の回復に伴う出生頭数の増加により前年並み、交雑種は乳用牛への黒毛和種交配率の上昇により増加が続いており同約1%増と見込んでいる。

6月の出荷予測頭数は、前年比2.6%減の8万400頭と予測している。品種別にみると和牛は1.0%減の3万3,700頭、交雑種は2.7%減の1万8,600頭、乳用種は4.2%減の2万6,900頭としている。東京食肉市場の6月のと畜頭数は7,100頭を予定している。

＜6月の牛枝肉相場見通し＞

ゴールデンウィーク期間中は天候にも恵まれ、牛肉の売れ行きは良好だったとされるが、明け後は例年通り末端消費は鈍化となり、また入梅時期をむかえ好材料は少ない。不需要期ということもあり和牛は弱含みの相場が予測され、交雑牛はスソ物を中心に堅調な相場展開が予想される。

| 和牛去勢 | 価格予測 | 交雑去勢 | 価格予測 |
|---|---|---|---|
| A5 | 2,750～2,850 | B4 | 1,600～1,700 |
| A4 | 2,400～2,500 | B3 | 1,450～1,550 |
| A3 | 2,100～2,200 | B2 | 1,300～1,400 |
| A2 | 1,850～1,950 | | |
| 乳牛去勢 | | | |
| B3 | 1,100～1,150 | | |
| B2 | 1,000～1,100 | | |

＜6月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した貿易統計の4月輸入牛肉通関実績によると、前年同月比20.8%増の6万2,141tとなり、大型連休に向けた手当てなどがあったことで増加傾向にあり、チルドは10.0%増の2万2,139tで前月から2,700t増、フローズンは29.4%増の3万7,002tでSG解除に伴う影響で1万7,000tの増加となった。農畜産業振興機構の予測による6月の牛肉輸入数量は、前年比0.8%増の5万600tと予測。チルドは、前年同月比3.8%減の2万2,000～2万3,000t台で推移すると予測している。一方、フローズンは、4.9%増の2万8,000tと前年同月を上回ると予測している。

| 輸入牛肉通関量 | | 4月 | 前年同月 | 前年同月比 |
|---|---|---|---|---|
| チルド | 豪州 | 12,052 | 10,468 | 115.1% |
| | 米国 | 11,905 | 11,573 | 102.9% |
| | その他 | 1,182 | 820 | 114.1% |
| | 合計 | 25,139 | 22,861 | 110.0% |
| フローズン | 豪州 | 17,510 | 16,980 | 103.1% |
| | 米国 | 15,419 | 9,451 | 163.1% |
| | その他 | 4,073 | 2,168 | 187.9% |
| | 合計 | 37,002 | 28,599 | 129.4% |

単位：t　　出典：食肉速報

## 小動物事業部

農畜産業振興機構によると3月の豚肉需給量は、生産量が7万8,201t(前年同月比98.8%)、輸入量が7万7,785t（同95.7%）、総供給量は15万5,986t（同97.2%）と減少した。推定出回り量は、国産品7万4,791t(同92.5%)、輸入品8万1,990t（同112.2%）、合計で15万6,781t（同101.9%）と前年同月を上回った。この結果、推定期末在庫は国産品2万474t（同129.2%）と、輸入品16万500t（同99.3%）、合計18万974t（同101.9%）と増加した。

4月の全国と畜頭数は前年同月比3.9%増の136万5,201頭と前年より増加した。同月の豚肉通関実績は、総量で8万232t(104.3%)と前年同月から増加した。チルドは3万3,822t（同105.9%）と増加し、その内訳は、米国が1万6,633t（同96.1%）、カナダは1万6,410t（同119.5%）、メキシコが776t(同87%)であった。一方、フローズンは4万6,410t（同103.3%）で内訳は、デンマークが9、928t（同94.8%）、スペインが9,659t（同107.3%）、メキシコが6,459t（同107%）、米国が4,764t（同89.6%）、カナダが3,230t（同101.8%）となった。

＜5月の豚取引の推移＞

| 上旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|---|---|---|---|---|
| 1日 | 75,000 | 590 | 585 | 538 |
| 2日 | 69,100 | 532 | 503 | 1,154 |
| 3日 | | 548 | 526 | 771 |
| 8日 | 66,600 | 632 | 608 | 748 |
| 9日 | 66,200 | 623 | 607 | 685 |
| 10日 | 65,800 | 598 | 558 | 791 |
| 11日 | 63,100 | 622 | 609 | 951 |

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万7,633頭となっており、東京食肉市場は平均805頭であった。

連休明けの枝肉相場は手当てが入ったことや予想よりも出荷頭数が増えていないこともあり高騰した。荷動きは堅調な状況が続いている。特に、ヒレやロース、カタロースは量販店などで特売が組まれるケースも多い為、引き合いは強い展開となっている。

| 中旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|---|---|---|---|---|
| 14日 | 61,800 | 648 | 636 | 589 |
| 15日 | 65,500 | 628 | 615 | 793 |
| 16日 | 61,300 | 607 | 579 | 652 |
| 17日 | 63,900 | 596 | 565 | 761 |
| 18日 | 61,600 | 608 | 582 | 941 |
| 21日 | 62,400 | 603 | 576 | 651 |
| 22日 | 63,300 | 608 | 578 | 792 |
| 23日 | 57,300 | 633 | 615 | 578 |

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万2,137頭となっており、東京食肉市場は平均719頭であった。

一部産地では疾病の影響もあり出荷頭数不足から相場は高値で推移した。しかし末端消費は鈍く、荷動きの良かったロースは引き合いが弱まっており、バラ、カタロースの荷動きも鈍くなった。一方、モモは特売需要などから引き合いは強い状況となった。

| 下旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|---|---|---|---|---|
| 24日 | 64,000 | 654 | 635 | 663 |
| 25日 | 62,800 | 654 | 634 | 878 |
| 28日 | 60,200 | 668 | 666 | 721 |
| 29日 | 63,400 | 669 | 646 | 882 |
| 30日 | 60,700 | 664 | 650 | 597 |
| 31日 | 61,800 | 660 | 633 | 648 |

下旬の全国と畜頭数は平均1日あたり6万2,150頭となっており、東京食肉市場は平均731頭であった。

全国頭数は6万頭台前半で推移しており、相場は600円を大きく上回る高値となっている。今月に入り高値が続いていることから、スーパーなどの売り場では輸入物へのシフトも増えている。ロース、バラの荷動きよりもスソ物の引き合いが強く、特にモモは荷動きが良い。また、フローズンは全体的に引き合いが強い状況となっている。

＜6月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による6月の全国と畜頭数予測は、129万8,000頭（前年同月比99%）で、一日当たりの頭数は約6万1,809頭（21日稼働）と見込んでいる。

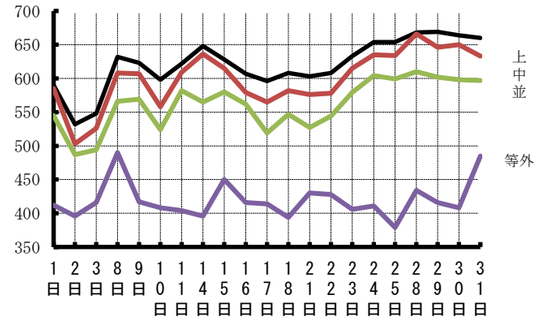
東京食肉市場の6月の集荷予定頭数は1万6,000頭となっており、一日当たりでは約761頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万6,200t（前年同月比95.3%）の予測となっている。内訳はチルドが3万2,300t（同96.4%）、フローズンは4万3,900t（同94.4%）の予測である。

6月から関東周辺産地の出荷頭数が減少傾向となり、日によっては6万頭を下回るケースも予想される。末端消費は活発ではないものの頭数次第では600円台の高値相場が継続することが予想される。

以上のことから東京食肉市場の上物平均価格は620円前後、中物平均590円前後になると予測する。

**豚　日別相場表（5月）**




出荷者の皆様へ

ＰＥＤをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。


**東京都港区港南２－７－１９**

**東京食肉市場株式会社**

**TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127**

**URL http://www.tmmc.co.jp/**